



教たま



教師になるために

ゼミ長 飯田 俊哉



ゼミ長として私には二つの目標がある。一つ目は「発言に責任を持つこと」である。私は自分の言葉に無責任な時があり、投げ出してしまうこともある。ゼミ長となった今は無責任であってはならない。教師になるうえでも、生徒たちに頼られる存在になるには自分の言葉に責任を持つことは重要なことであると考えている。教たまゼミのゼミ長という自覚と責任をもって行動することを忘れずにいたい。

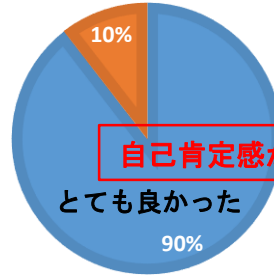
二つ目は「効率よく話し合うこと」である。私を含めた3年生は時間を無駄にしすぎているように感じる。自分が伝えたいことを短くわかりやすく伝えることができなくてはいけない。話し合いの機会を設けることはいいことであるが、中身が無駄なものばかりであると話し合いは無駄なものではない。時間は無限にあるわけではない。そのために私は、早く反応すること、自分の考えをしっかりと持ちまとめることを意識していきたい。

この二つの目標は、教師になったときに必要になってくるものだとは私は考える。

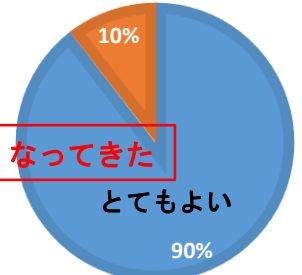
前期「教たま数学教室」終わる

7月24日、前期「教たま数学教室」が終わりました。中学生も私たちもとても成長した学習支援でした。アンケートの結果から検証します。

自分の勉強



自己評価



自己肯定感が高くなってきた

先生の教え方 (生徒からの学生評価)



前期「教たま数学教室」の成果



熱意と親切さを感じる

わからないと聞ける

教員からの応援歌

加藤 良平

今年の教たまゼミは、みんな生き生き活動しているように感じています。こんな青年たちが教育現場で子どもたちと向き合ってくれたら、子どもたちは笑顔で毎日の学校生活を送り、大きく成長する可能性が膨らむのではないだろうかと思ってしまう。さて、今の日本の子どもたちは自分の居場所を求めて彷徨っているように見えます。いじめ、不登校、貧困、虐待、友人関係に気を使わざるを得ない状況に置かれている、学力を高めたいが、自分の理解に関係なく授業はどんどん進んでいく等々。子どもたちの現状には困難な課題が山積されています。これは、子どもの責任なのでしょうか。

皆さんには、そんな苦悩を抱えている子どもたちに寄り添う教師になってもらいたいと考えています。子どもの人格の一部として、学力を高めることはとても大切です。そのことを大切にしつつ、子どもたちに寄り添うためには、子どもの生活を丸ごとつかむことが求められます。どうすればそんな教師に成長できるのでしょうか。私は社会を見る目を育てることも大切だと考えています。その切り口として、不登校問題やいじめ問題をみんなで考えてみませんか。不登校で悩んでいる子どもたちの中には、教師は、学校は自分の敵だと思っている子もいます。なぜそう思うのでしょうか。教師も追い詰められているから子どもたちに対して機械的な対応になり、心を置き去りにしてしまうのかもしれない。

教育と言うのは集団的な営みです。先生方を信頼し、保護者を信頼し、一緒に子どもたちを育てていく大人の力の結集が何より大切です。それが現場でできるようになるために今のゼミ活動では何が求められているのでしょうか。みんなで考えあいたいものです。

学生の感想から

3年 杉浦 健太

7月24日で、今年度前期教たま数学教室が無事に終了した。一番最初に行われた体験会&説明会の参加者がいなかったことが嘘のような、にぎやかな教室で幕を閉じた。

初めは生徒も学生も緊張しており、まちらボの空気が重たかった。しかし、回を重ねるごとに、生徒は学生と話したり、数学について考えたりすることを楽しみにし、学生はわかってもらえた時やテストの結果が良かったことに喜びを感じ、全体の雰囲気がとても良くなった。

最後は、生徒に自分が頑張ったことや成長したと思うところを発表してもらった。中には「分数を好きになることができた」など、期待を大きく超える発表をしてくれた生徒もいた。生徒が自分自身の成長を短い期間にも関わらず感じ取ることができることに心しながらも、学生はその成長に貢献することができたのだと感動した。

後期にも数学教室は行われるので、前期で得た知識・技術を活かすのはもちろん、たくさんみつかった課題についても検討し、より良い数学教室にしていけるよう努めたい。